地域別重点施策に係る施策取組状況評価

【南会津地域】

施策の展開方向	重点施策	県の評価（概要）	
		施策を推進する上での主な課題	主な今後の取組みの方向性
地域特性を生かした経済の活性化 地域の主要産業である農林業の振興を図るとともに、新規創業や異業種参入など新たな事業への取組みに対する支援、後継者の育成などにより地域経済の活性化を図ります。	①　夏季冷涼な気候を生かした園芸作物の産地形成や冬期に農業収入を確保する取組みを支援します。また、直売所などによる販路拡大や農商工連携による付加価値の高い地域特産品の開発、都市交流型農林業の展開、森林資源の有効活用などを図ります。	◆農林産物の生産量拡大や産地化について、中・長期的な視点での対策。 ◆農林産物や加工品の地域内での消費の限界。	◆産地を形成しているトマトやアスパラガスなどについては、産地を維持し生産量を拡大していけるよう担い手を確保するとともに、ブランド化の推進を図る。 ◆地域産業の６次化を推進し、地域外への販路開拓や観光客向けの商品開発など高付加価値化による収入の向上を促進する。
	②　地域の特性に応じた企業誘致の推進や新規創業、異業種参入に係る取組みを支援し雇用創出を図るとともに、生産者と販売者の情報共有やネットワーク化などにより、販路の開拓や地域内における流通の円滑化を促進し生産拡大を図ります。	◆地域外への販路開拓や観光客向けの商品開発が必要。	◆「南会津」や商品のブランド化を含め、観光客等地域外の消費者ニーズに即した商品開発等の取組みを支援する。
	③　事業などの継承を希望する人の育成を図るほか、農林業については、UIターン者への支援などを通じて新規就業を誘導し担い手の確保を図ります。	◆新規創業、新商品開発などに意欲を持つ人材や後継者の不足。	◆新規創業、新商品開発などに意欲を持つ人材や後継者の確保及び育成を行う。
集落機能の維持に対する支援等 伝統文化の継承や緊急時の体制整備など集落や地域が持つ機能を維持、活性化していく取組みなどを支援します。	④　地域づくり計画の策定や祭り、食、年中行事などの伝統文化の継承、さらには、災害など緊急時の情報伝達体制や相互支援体制の整備、構築など集落等の機能を維持、活性化するための取組みを支援します。	◆集落活性化に向けた取組みにあたって、市場（経済活動）への意識が不足。 ◆高齢化に伴い、集落活性化に向けた人材が不足し、集落の意思決定が困難な状況。	◆集落活性化に向けた取組みをどのように市場（経済活動）に繋げていくかという視点で助言等の支援を行う。 ◆集落活性化にあたっては、住民と、町村、大学生、NPO法人などとの連携調整に努める。また、成功事例を創出し、地域全体として取組みへの意欲増進を図る。
	⑤　子どもたちが、地域で心豊かにたくましく育つことができる教育環境の整備、充実に努めるとともに、高齢者や障がい者など誰もが安心して、いきいきと暮らしていけるよう、関係者や関係機関による地域のネットワークの構築、強化を図ります。	◆児童・生徒数の減少により、教育環境格差が生じる恐れ。 ◆特別支援教育や障がい福祉に係るハード面での環境不利の克服が困難。 ◆支援が必要な高齢者を支える介護サービスの資源が限定。	◆町村と連携し、地域の実情に応じた教育環境の整備・充実を図る。 ◆関係機関の連携により、居宅介護サービスの拡充や地域の見守りなど、地域福祉活動の促進を図る。
地域資源を活用した交流人口の拡大 豊かな自然環境や会津田島祇園祭、檜枝岐歌舞伎に代表される伝統文化などの多様な地域資源を活用した滞在型観光の推進などにより、交流人口の拡大を図ります。また、地域に適した定住・二地域居住を推進します。	⑥　国道289 号甲子道路の開通に伴い、会津・米沢地域観光圏整備推進協議会やFIT構想推進協議会などの広域連携体制を活用し広域観光圏の形成を促進します。また、会津縦貫道（会津縦貫南道路）や国道289 号八十里越など広域的な道路網の整備に努めます。	◆南会津地域が広域観光圏の中で埋没してしまうおそれ。 ◆国道289号入叶津道路（八十里越）の整備効果の早期発現に向けた検討や会津縦貫南道路についての計画的な事業の実施等。	◆広域連携体制を活用した広域観光圏を形成するなかで、南会津地域の魅力を積極的にアピールし、宿泊に繋げていけるよう努める。 ◆国道289号入叶津道路（八十里越）は、関係機関と暫定供用の必要性等について検討を行っていく。また、会津縦貫南道路については４工区の早期整備完了に向けた事業の計画的な推進等を図る。
	⑦　自然環境や伝統文化、只見川の水資源を利用した田子倉ダムなどの地域資源を活用したレクリエーションやグリーン・ツーリズム、環境学習など滞在型観光を推進します。また、教育旅行の受入体制を整備し、国内外からの受入拡大を図ります。	◆温泉地等の宿泊者数が減少傾向。 ◆体験・滞在型（着地型）旅行プログラムの開発やグリーン・ツーリズム等の既存の受入組織との連携など、新たな受入態勢の整備。	◆外部の視点などを活用することにより、地域資源の客観的な評価や改善策の検討などを行い滞在時間の延長を図り宿泊につなげていく。 ◆グリーン・ツーリズム等の既存の受入組織との連携を進め、集落や民間団体等の取組みを支援することにより、体験・滞在型（着地型）観光の推進を図る。
	⑧　都市部の住民向けのクラインガルテンの整備など、地域に適した定住・二地域居住について、関係機関と連携しながら推進します。	◆町村における、定住・二地域居住の取組みについての考え方の相違。	◆定住・二地域居住については、定住者等の地域振興の取組みを支援する。また、町村等関係機関の受入態勢が構築され次第、推進することができるよう空き家情報を収集するなど環境整備を図る。

【南会津地域】

施策の展開方向	重点施策	県の評価（概要）	
		施策を推進する上での主な課題	主な今後の取組みの方向性
地域の自然環境や歴史的景観の継承 尾瀬などの湿原やブナ原生林等の自然環境や日本の原風景というべき大内宿や前沢曲屋集落に代表される歴史的景観などの地域資源を後世に継承します。	⑨　尾瀬国立公園やブナ原生林などの貴重な自然環境を保全していくため、尾瀬保護財団などの関係機関と連携して、一体的な保護と適正な利用を進めます。また、里山や水辺など多様な自然環境を保全する取組みの支援とその適正な利活用を図ります。	◆尾瀬国立公園に編入された地域の環境保全や保護と適正な利用のあり方の検討が必要。 ◆尾瀬の適正な利用と保全のあり方における、関係機関の考え方の相違。	◆尾瀬において、環境省や（財）尾瀬保護財団などの関係機関と適正な利用と保全のあり方について協議するとともに、対策に取り組む。
	⑩　豊かな自然環境や大内宿や前沢曲家集落に代表される歴史的景観など、地域の素晴らしさを後世に継承していく取組みを支援します。	◆将来を担っていく児童・生徒に地域の良さを理解してもらう必要。	◆地域の児童・生徒に地域の素晴らしさを理解してもらうための取り組みを推進する。
生活基盤の維持･整備による安全で安心な暮らしの確保 過疎化や高齢化が進行する地域において、安全で安心な暮らしを確保するため、医療や保健福祉、交通、情報通信などの生活基盤の維持、整備に努めます。	⑪　県立南会津病院の機能充実を図り、へき地医療拠点病院として地域医療の安定的な確保に努めます。また、保健福祉サービスを確保するための仕組みづくりへの支援に努めます。	◆医師の確保については、病院単独ではなく県全体の施策の中で対応が必要。 ◆高齢化が進行する地域のため、社会福祉施設や介護施設の整備や運営の支援が必要。	◆本庁関係部局など関係機関と連携し、県立南会津病院の医師確保や医療機能の充実に努める。 ◆住民が地域で安全で安心に暮らしていけるよう、必要な社会福祉施設や介護施設の整備や運営を支援する。
	⑫　円滑な交通を確保するため、交通不能区間や危険箇所の解消を図るとともに、特に冬期における日常生活を維持するため、冬期交通不能区間の解消や除雪体制の整備促進を図ります。また、会津線、会津鬼怒川線について、沿線住民の利用動向などを総合的に勘案しながら、関係自治体等との連携の下に支援します。	◆冬期交通不能区間の解消や交通不能期間の短縮、除雪従事者の不足。 ◆会津鉄道㈱及び野岩鉄道㈱の経営安定のためには、鉄道の利用促進が必要。	◆地域の要望や利用状況を勘案し、路面凍結・雪崩危険箇所の対策や試験除雪などを進める。また、除雪についての地域住民や関係機関等との適切な協力体制の維持と除雪体制の構築に努める。 ◆会津鉄道㈱及び野岩鉄道㈱の経営安定を図るため、両鉄道及び沿線町等の関係機関と連携し利用促進を図る。
	⑬　地域の誰もが情報システムを利用できる環境の実現に向け、携帯電話の通話エリア拡大やブロードバンド環境など情報通信基盤の整備を促進します。	◆現時点では、地上デジタル放送の難視聴地域の範囲が未確定。	◆地上デジタル放送の受信環境の整備に要する経費を助成する町村に支援を行うなど、必要な対策を行う。
	⑭　地域面積の9割を占める森林の整備等を進め、水源かん養や土砂流出防止など森林の有する公益的機能を高めることにより、安全で安心な生活の確保を図ります。	◆森林の公益的機能を維持し向上させていくために森林整備が必要であることの周知。	◆森林整備や作業道路の整備等を支援する。